

会議の名称	平成18年第5回 鳥海地域協議会
開催日時	平成19年2月7日（水） 午後6時
開催場所	由利本荘市鳥海総合支所 講堂
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	（次葉 取消線の者）
（会議次第） 1. あいさつ 鳥海地域協議会会長 鳥海地域自治区長 2. 協議事項 （1）由利本荘市観光振興計画（案）について （2）平成19年度の事業計画について （鳥海総合支所管内） （3）その他 3. 総括 鳥海総合支所長	
会議の経過	別紙のとおり

◆出席者名簿

(委員30名)

[illegible]

(会議の経過)	
第5回 鳥海地域協議会	
平成19年2月7日(水) 午後6時 開会	
	(開会) (資料確認・説明)
村上振興課長	「ただ今より、平成18年度第5回鳥海地域協議会を開会いたします。 はじめに、松田 鳥海地域協議会長よりご挨拶申し上げます。」
会長	「おぼんでございます。例年の雪に比べますと、まあ去年は別格としましても、今年は非常に雪が少なく気温が高いので、この後の不安の部分もある訳ですが。本日は第5回目の協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。約半数という事で、欠席された方々は何か事情があるんでしょうけれども、ご出席いただいたみなさん、本当にありがとうございます。今日は商工観光部のほうからおいでいただきまして、色々説明をしながらという事でありまして。今までこの協議会でも鳥海の総合ミュージアムという形で色々話し合いをしておりますけれども、そのへんのところも、今日出るんじゃないかなと思っております。なお、後半のほうでは課長さん方から19年度予算の内容についてご説明いただきます。夜分で大変恐縮ですけれども、最後までよろしくお願い申し上げます。私、会長という立場では、2回ほど本荘での会議に出ております。一つめは1月31日でございますけれども、今まで地域協議会の会長同士で任意にお互いに話し合いをする機会を持っておりましたが、今回は市長とも懇談する機会をぜひ持ちたいという要望を出してはございましたが、そういう意味で初めての会議を持たれたという事です。内容的には、18年度の実績、ケーブルテレビ等も含めてのそういう話がありました。もちろんそのほかの話もありました。特に私の方からは、いわゆる環鳥海の観光振興については、温泉を核とした総合ミュージアムを猿倉地域にお願いしたいという事を直接申し上げます。その後、2月1日にはアイリスで、組合病院の運営協議会。病院の幹部の皆さんご出席されましたし、或いは由利本荘市からも地域の役員のみなさん、地域協議会の会長という形で会が行われました。院長、事務長等の話によりますと、色々今の医療改革によりまして、組合病院も17年度に比べて18年度はかなり落ち込んできたという事でありまして。Bさんも出席されておりましたけれども、いずれ色々な面で影響が出ているなと思うわけです。今、子育て税という問題も出ておりますので、みなさま関心があるんだろうと思いますけれども、いずれにしても、我々も年度の終わりと新しい年度を迎えるにあたって様々な問題が山積しておりますので、今日はそういう所もみなさんからご意見や質問を出していただきながら、会を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。」
村上振興課長	「佐藤 鳥海地域自治区長よりご挨拶申し上げます。」
佐藤区長	「日中のお仕事でお疲れのところご出席いただき、誠にありがとうございます。ただいま会長のほうからお話がありましたが、今年の冬は本当に雪が少なく、非常に我々楽をしている訳で、市のほうでも除雪費が非常にかからなくていいなというお話もありましたけれども、我々といましては冬季国体を控えておりますので、この間のリハーサル大会は、自衛隊のみなさんのご協力や地域のみなさんのご協力で実施する事ができました。その後、少し雪が降ってよかったなあと思っておりましたが、また天気がよすぎて雪が消えていくとい

う事で心配しておりますが、なんとか本来予定したコースで国体をやりたいという事で進めておりますので、みなさんから大会を盛り上げる意味でもご協力をよろしくお願いしたいと思います。１０日から１２日までという事ですが、本番は１２日でありますので、よろしくお願いします。また、由利本荘市の観光振興計画の案が出来たという事で、この案に対してみなさんから色々ご意見を伺いたいというような事から、この計画書（案）をみなさんに事前に配布して色々検討していただき、そしてご意見をいただきたいという事に対応しておりますし、また本日は皆さんのご意見を聞きたいという事で、商工観光部長はじめ、スタッフのみなさんが来ておりますので、よろしくお願いします。それが終わりましたら、１９年度の市の予算、鳥海総合支所管内の内示があった予算について説明申し上げたいという事があります。大変お疲れのところと思いますが、よろしくお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。」

村上振興課長

「続いて協議に入らせていただきますけれども、会議の議長は条例第９条第４項の規定により会長が務めます。」

議長

「それでは、協議に入りたいと思います。今日の案件は２つありますが、最初に由利本荘市観光振興計画（案）について、商工観光部の藤原部長さんがおいでです。担当のみなさんから説明していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。」

藤原商工観光
部長

「商工観光部の藤原でございます。常日頃、商工観光部の関わる事業につきましては、みなさんから大変ご協力をいただいて感謝申し上げたいと思います。また、先日はバス路線の廃止などにおきまして、みなさん心配されておる事と思いますが、市長のほうにも要望という事で、この間見えられましたように、いずれにしましても代替なり、みなさまにご不便をかけないような、そういうふうな方向付けをしていくようにとの指示もありましたし、我々もそういう線で今後バス路線の廃止関係につきまして進めていきたいと思っているところであります。今日は由利本荘市の主要事業のひとつであります、観光振興のほうであります、その計画が今まで議会とは２回お話ししておりますし、それから幹事会が３回、そして策定委員会が３回、議論をしていただいております。その中に、なんと言っても観光振興という事は鳥海山が核になる訳でありまして、ゾーニングという形の中で沿岸部のほうも入ってますので、みなさんに１週間くらい前でしょうか、私の方からお目通しをお願いしておるところですが、まあそういうそのゾーニングしまして、全体の地域のそれぞれのビューポイントなり、観光にかかる部分は網羅しているところであります。ここ鳥海地域におかれましても、それぞれの思いもありましたでしょうし、合併する時のまちづくり計画なり、新市の総合発展計画の中でも位置づけておりますし、それとリンクした形の中の今回の観光振興計画であります。担当は課長が鳥海出身でありますし、鳥海山観光振興室の室長の榊さんが、また鳥海でありまして、鳥海の事は当然一番に考えて、この鳥海山、ふるさとが観光の一番のポイントになるという事は、私も思ってますし、お二方もすごくそういう意味では、いい計画を練ってるんじゃないかなと思っております。今日は榊主席からも説明してもらいますので、終わったあとには、どうかご忌憚のないご意見を伺って帰りたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。」

観光振興課
榊主席参事

「しばらくぶりでございます、榊です。観光振興課に参りまして、ちょうど２年になりました。私のほうから観光振興計画（案）につきまして、３０分ほどお時間をいただいて説明させていただきたいと思います。」

～ 由利本荘市観光振興計画（案）について説明～
（序章～）

藤原商工観光
部長

「榊主席から概略を説明させてもらった訳ですが、１７年度から整備は随時１７年１８年と行ってきておりまして、事業のほうはここに掲げておりますが、３割は進んでいるのかなと。これは発展計画とリンクするために前に進めなくて今の計画になった訳なんです、いずれにつきましても、もう進行中であり、進め方としましてはあまりよろしくない訳なんです、まあそういう事情ですので。説明に関わる部分についてみなさんからご意見を十分承って帰りたいと思いますのでよろしくお願いします。」

議長

「今、１０年間の観光事業という事で説明がありました。この協議会で前に色々協議されました鳥海地域の総合ミュージアムについても触れられましたが、みなさんが心配しているいわゆる環鳥海という立場からの鳥海観光はどうなるのかな、ただ下から見ていい山だなで終わるのかなと、そういう人もいますので、そういう事ないようにするとすれば、みなさんからいろんなご意見いただきながら、この計画もまだ確定ではございませんので、色々ご質問等いただきたいと思います。」

A 委員

「観光振興課さんには、日頃鳥海地域の観光にご協力いただきまして大変ありがとうございます。感謝申し上げます。それに関しまして、５４ページですが、施設間連携を進めると頭を書いてありますけれども、その中に、バリアフリー等の新たな投資を必要とすると、ここまでは非常にいいアイディアだと思いますけれども、その後ろの統廃合も含めたということになりますと、例えば鳥海と矢島の施設をひとつにするとか、そういう統廃合を含めた統廃合になるのか、鳥海地域だけの統廃合という意味なのかお伺いしたいと思います。それと、今の計画の案で、これから鳥海ダムという計画もあるようですから、これが鳥海ダムが着工になると、工事中の観光という事もありえるだろうと思いますし、それから完成後の観光も進めていかねばならないと思います。それに対し計画もひとつ取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いします。」

藤原商工観光
部長

「はい。統廃合というのは、ここに限った部分ではなくて、今後観光協会さんと役員会２０日ですか？まあ、イベントもそうなんですけど、スケールメリットといった、例えば分かりやすく言うと、由利原のケビンが矢島と競合する訳なんですけど、今後の考え方とすれば由利は緑を中心としたお客さんにしようと、そして矢島の花立は鳥海山に見えるケビンというか。滞在型というか、そういう事をするとすれば、あちらの施設をどうしましょうとか、そういうようなテーブルについていかなければならないと。まあ、一つの例ですけど。やっぱり似たような施設がありますので、今後維持していくとすれば場所もそれでいいのかという事になります。旧大内町であればファミリーランドという施設もあるんですけど、やっぱり維持していくためにはお金もかかるんですよ。このままでいいかとすれば、由利のふれあい牧場のほうに力を入れていったほうがいいのかとか、そういう話し合いをしていきたいというのが一つであります。関わるものが、縮小なり、方向を変えるというような話し合いをもっていきたいと思っています。それからもう一つ、鳥海ダムなんです、これは当然出来てもらわなければ困る訳なんです、今はまだ調査事務所という関係で、当然大きなダムが出来た場合はビューポイントというか、鳥海山の水という事で当然ウリになる場所だと思います。その場合には、国交省

	との関係、県との連携という事で十分しておりますし、観光振興と併せて考えていただけるものと考えております。これは県の観光課とも当然観光振興については、十分話しておりますので、調査事務所からひとつあがった場合には事前に地域とも連携を取りながらやっていくつもりというか、必ずやっていく事になると思います。」
A 委員	「私、先ほど言ったのは、鳥海ダムが出来てからやるのではなく、やってもらうために観光を先に話を出したほうが、ダムも早く着工できると思うし、予算化も早くとりやすいんじゃないかと、こういう意味も含めて話しました。分かりました。」
議長	「今言ったのは、非常に大事な事だなあとと思います。ダムが出来ると、鳥海観光はかなり変わってくるとある程度想定できますので、そこを見越した事をやるべきでないかという事ですので。ダムが出来るか出来ないか分からないと言っちゃえばそこまでのので、出来るという仮定で動いてもらえればありがたいと思います。」
藤原商工観光部長	「この計画に表すというのは、今の段階では無理だと思います。多分決定してないので。ということは県でも鳥海観光については、知事も力を入れますという事になってますので、今の観光課もそうなんですけど、これは今の計画に入れてしまえば、むしろ反対に県に嫌な思いされるんじゃないかなあ。これは別に県から許可もらって、お金もらってやる振興計画じゃないですけども、いずれ県では、県としてかなりの力を入れて鳥海山についてはやってもらえと思ってますし、それは心配ないと思ってます。いずれ調査事務所から本格事務所になれば、建設事務所になれば、その話は当然変わってくると思いますし、会長さんも言われましたが、かなり変わった、いい鳥海山の観光になると思います。」
B 委員	「総合ミュージアムについてですが、この総合ミュージアム建設の最大の目的は、鳥海地域を中心として伝えられる貴重な文化財、伝統の継承、実演等と私は理解しているが、この文言だと建設はするというような文言になってますよな？にもかかわらず、これから設置場所については委員会を作らなければどこに作るか決められないという事自体、私非常に変な文言だなと感じる訳です。私たち、鳥海地域としては、計画ができあがった段階で、今私がいうのは番楽の催しなり、さまざまな芸能の実際の保存状況、実演の状況とか、保存されてる色々な伝統芸能の種類の多さというような事を考えますと、これは当然我が地域の施設になるんだという認識でいる訳ですよ。そこら辺ですよ。ただ一説によると、矢島地域が矢島高校の跡地にこういうものを建てるのかというようなことを発展計画の中に盛り込んだという話もありますし、実際そういう文化を伝承していない地域でもそういうものを建てる可能性があるのか、そういう事もありうるんですか？今後。そうすれば我々はどのような取り組みをしていけば、この地域にそういった施設を建てられるような状態になるのか、その辺について教えていただきたい思います。」
藤原商工観光部長	「矢島の学校跡地に建てる話は全然考えていませんし、話も出ていません。どこからきた風だか分かりませんが、そういう話はありません。ミュージアム構想については、私、合併当時幹事でした。企画課長さん方入った時に。その時には確かに、今の伝承芸能とかそういうミュージアム構想のブアーツとした話でした。その後、いろんな話が出てきて、額として１５億くらいというような事が出てきたんですけど、新市まちづくり計画の時に、どういうものとい

うのは正直見えてませんでした。今、新市発展計画の中でも、特例債つくもの
とつかないものとか、あの当時で観光振興の場合５０億くらいの予算を見てお
ったんですけれども、これも見直してという事はないでしょうけれども、見直
しに近い事をしなければならないと。例えば今、１５億かけてミュージアム、
ハコが猿倉に。これ、意見の分かれるところですけど、あそこにハコ１５億
かけて、伝統芸能だけでいいのかと。鳥海山に来た人が、そこに来てもらうた
めには、矢島も見て、いろんなどこを見て泊まってという、いろいろな構想に
なってきたと思うんです。それは分かります。それで新市まちづくり計画を作
る時にも、今のハコもの１５億かけて、そこでいいのか、またはもう少し規模
を縮小したほうがいいかという話もあったんですけど、もうちょっと検討し
てもらいましょうと。これ財政的な部分、夕張市じゃないですけども、やっ
ぱりハコってというのが気にかかる部分。でもやっぱり、今言われましたような
地域の思いと、テレビ等々で見るようにここの地域っていうのはすごいもんだ
なあと、市のみなさんも感じている訳で。ただ、今ここで文言として松田会長
さんにも発展計画の時に、温泉を核としたミュージアムというような文言とし
て記載しなさいという事があったんですが、これもなかなか、当然温泉は核で
す。猿倉温泉も、鳥海荘も。ですから今年も補正予算でバンバンつけて、もの
を入れてますけれども、ここに泊まってもらわなくては鳥海観光ではないと思
ってますんで。ただそこにミュージアム構想が今、ポンとあげれないでいるっ
ていうのは、本当に苦しいところなんですけど、鳥海山に人が来てもらうため
には、どこがいいのか、またはどのくらいの規模でっていうのは前期に検討委
員会をたてて、今残っているのは４０億くらいの事業になるかと思うんですけ
れど、そういうものを併せて検討していきたいと。ですから、由利原は牧場関
係、矢島は滞在型、ここは温泉とそういうようなやり方。それから鳥海山の湿
原とか、そういうものっていうのは開発あって、自然保護課とかのいろんな関
係とか出てくるんでしょうけれども、それも一つのチャレンジっていう、リフ
ト付けたり之苦労もあるかもしれせんけれども、そういうものも含めたトー
タル的なものの位置づけっていうくらい、やっぱりミュージアム構想っていう
のは大きいと思うんです。金額にしても、目指す部分、この地域の伝承文化の
部分の番楽も分かる訳なんですけれども、それを前期の中でなんとか検討させ
てくださいと。確かに２１年・２２年頃になると、財政的にもある程度ピーク
が、この間市長も申してましたけれども、そういうふうになれば、考え方も出
てくるんでないかなと。今、学校３つ建てたりしてますんで、そういう位置づ
けの今回文章の表し方しか出来ないなという事なんで、これはお許しいただき
たいなと。目指す部分はそう思ってます。」

B 委員

「それに関して、この伝統芸能というのは、地域で非常に鳥海の場合は一つの
集落ごとに特色があるんです。伝統芸能を保存して、今の何か機会あるごとに
実演されてますし。若い人達もある程度育って、上手なんです。という事は、
どこかで実演してみなさんにお見せする、自分達も楽しむ、そういった生きた
ものをこれから伝統を継承していかなければならないんです。パタッとどこか
で止めてしまえば、それでおしまいみたいな性格をもってる訳です。だから、
鳥海は各集落ごとに何十戸かある小さな集落で、全く違う芸が保存されてる。
なんでそういう事になったかというのを、私なりに考えてみたら、やはり見せ
る場があったんだと。一番の大きなものが、隣の院内銀山いうものがあったと。
あそこの人口の多さ。そういうものを見る人がいた。それにお祭りとか様々な
機会を通じて、ここの集落が競い合ってそこに出演して。そういう意味です
よ、今各集落は高齢化もしていますし、後継者もこれから少子化という時代を
迎えて確保するのも難しくなってきます。今ですよ、そういう目的を持って皆
さん方、自分たちがやって、見てくれるお客さんも来るし、これからやってい

こうという一つの目標をたてて、そういったものを保存していくという必要があると思うんです。だから、これは必ずしも15億かけなければならないという事ではなく、いろんな弾力的なやり方でいくらかでもやりようがあると思うんですよな。やっぱり鳥海荘であれ、フォレスタであれ、わざわざ来てくれるお客さんのためにも、我々が芸能を保存して誰かに見せるという目的を達成するためにも、ぜひ地域のそういう事を保存している方々にも分かりやすく目的を示して、継承していくものを作っていく。それからもう一つ。今、バスの話。例えばですよ、長距離バスにしても、本荘駅から今長距離バス出てる訳ですよな。なんとかフォレスタなり、鳥海荘なり経由して東京・仙台にバスを。あそこが始発でもいいし、経由でもいいからよ。そういう形のものできないものかと言いますと、なかなか国土交通省の規定があるという事で、そういう事は基本的にできないという。ここですよ。何かしらそういう発想がないと。今、あちこちの公共交通機関乗り継いでここまでお客さん来るなんてこと、今バスもやめますとなると、簡単にできなくなってしまうんですよ。やはり、仙台なり東京なりから直接ここに来て楽しんでいただけるような、一つの特区。規制緩和です。こういった働きかけも私はできればしていただきたいもんだなと。その2点です。」

藤原商工観光
部長

「今、Bさんがおっしゃられたその芸能の取り組み。これ大阪のエージェントさん来た時にやってもらいました。それで、当然振興計画の中でもぜひお願いしたいという位置づけをしております。それから由利町のスターハウス。あれも東北で2番目にいいポイントで矢島は全国で2番目星がきれいに見えるところ。いずれ、伝統芸能とか町がひとつになった時鳥海も旧由利町もそういう連携という事を十分考えておりますし、みなさんの伝統芸能、テレビ等でかなり触れましたし、かなり理解者がいるというかファンが出てきたんじゃないかなあと話されてます。当然そういう事を含めた事を考えていきたいと思えます。それから今の特区について、これなかなか難しい話で、例えば道幅からできるのか国交省の今のバス廃止したところ、もう一回特区にこれは何か調べたりしなければ分かりませんが、いずれ鳥海荘とフォレスタとの連携という我々は由利高原鉄道の利用という事をゆっくり乗ってもらってスローライフというか、ひとつ考えてますけれど、由利原からあがってきた緑を見てもらって、鳥海山みて、フォレスタ・鳥海荘に戻ってくるコースなんて魅力あるし、そのコース設定なりいろんなものをいろんな方々から意見いただいています。特区については、かなり勉強しなければいけなくて、でも確かに仙台圏もターゲットにして行きましようとか関東・関西じゃなく、近い一泊二泊という近いところも実際にターゲットの中に入ってますので。特区、できるかできないか。でも、言われてみてなるほどなと。難しいかもしれないけれどもそういう考え方もひとつ参考になりました。ありがとうございました。」

議長

「今、Bさんからは、私の立場でも思うこといっぱいあるんですけれども、いろいろ出していただいて。実は、この計画ができる時も、質問して場所の特定をと申し上げた。ある意味ではまだ時間があるという事で、もう少し検討しようという事で、逃げられた。結果論としては、それがまだもやもやしてる訳ですから。ただ後期の方で実施と言うことだが、「あそこで15億かけてなんになる」という、そういう金額面の意見になっているように聞こえてくるわけだが、それなりにあとで維持管理できるような範囲内で構想できないかというのが、私たち協議会の願いです。」

今、矢島・鳥海・由利の関連はつながってる訳ですけども、25ページの文言でひっかかっているとこがあつて。ここで鳥海山麓地区総合案内所という、これは矢島にある訳ですが、これは矢島町時代に田園空間整備事業で作られた

	ものという文言を付け加えなければ、もうすでに出来てるじゃないかという誤解を招く感じがしたので、事業名を入れる事ができないかなと。」
藤原商工観光部長	「矢島のあそこの案内所が鳥海山麓地区総合案内所でいいのかといえ、正直言ってあれは事業として取り入れたものでありまして、我々としては、あれは総合案内所にはならないなあって。こんな事、矢島に行って言われなければならないけれども。やっぱり今後本当にトータル的に案内できるような、そういう意味でここにあげているんです。あれはあくまでも合併する前の事業でやったという考え方、私たちはそう思ってますけれども。その文言を入れてしまえば、かえってみなさんに「え～、あれで」というふうに。」
議長	「矢島の人達にあべわりという事ですな。」
藤原商工観光部長	「あすこは道路から過ぎてしまっ、見えないすもんなあ。」
議長	「私以外にも誤解する人がいるかもしれませんので、そのへんのところ検討していただきたいと思います。」
C 委員	「先ほどのみなさんの質問とダブる点もあると思いますが、まずミュージアム。それは今までは鳥海町に出来るものとばかり思って、私は一生懸命関心をもってきましたけれども、B さんが言ったように、場所・計画については今後調査に入ると言うが、これは何なのかなと思いました。それから、もう一つ。色々みなさんの考えあると思いますけれども、58 ページ。この写真なんですけれども、由利本荘市の観光を強調すべきなのに、これ見れば子吉川の本荘ばかり大きくて、鳥海町なんか見えるのか見えないのか分からない。写真の撮り方が、なんで鳥海山を真ん中にして上から撮るとか。それから、由利本荘市に来る人が何を求めてくるのかなと。何を見たくて来るのかなと。特に県外の人であれば、先日市長と語る会でお話しましたがけれども、全国美しい村12ヶ所に鳥海町が入ってるんですよ、美しい村に。分かりますか？その写真家がタワラジュンジさんと言って世界的な写真家なんですよ。で、その人が鳥海町に泊まって、こんなに雪がキレイなのかなって、こんなに美しい白い雪見たことないって涙流して帰っていったんですよ。そういうところがこの写真の鳥海山の裏にあるんですよ。だから、この写真の撮り方もちょっとマズイ。要するに、ポイントの持っていく方だと思います。私が言いたいのは、お金を15億とか20億かけるじゃなくて、おそらく今このミュージアム作れば10年後、30年後、50年後だと思います。その頃には鈴木さんが言ったように鳥海ダムも出来てると思うし。そういうのを見せてやる事が大切だと思うんですよ。実は私、1月の27日に福島と埼玉と仕事で行ってきました。ある小さな山の中のホテル（温泉）に泊まりました。全く百宅と同じで店もないところ。そこにある業者が来て（建てた）。まあ色々地域の活動もあったと思いますけれど。案内してくれた人は「ここは別の国だよ。この地域でここはおとぎの国だよ。」と言っていました。常に満室なんです。それで、そこにお客さんが来るんです。いいものがあれば来るんです。私が言いたいのは、そこにおいしいもの、珍しいものがあれば来るんです。鳥海町ではそれを作りたいと。そこに私たちが400年も前からやってる番楽を見せたいと、国の指定を受けようと、今一生懸命やってるんです。だから、その地域に合ったものを作ってほしい、というのが私たちのミュージアムに対する熱い思いなんですけれども、番楽はどこでやっても番楽なんですけれども、やっぱり環境や景観といった独特の風土とマッチしたところで演じることによってイメージが整う訳で、例えば本海番楽なんか、わざ

わざと篝火焚いてやってるんです。あれはイメージ出すためだから、やっぱり自然の中の昔のまま残ってるところが鳥海町なんです。3月にまた本出ますけれども。そういうところで文化を残す。だからなんとか鳥海町にこういうもの作らなければならないという状態ですけども、私達は鳥海町にお願いする協議会ですので、キチッと出していただいて、その後は予算とか内容とか色々あると思いますけれども、お願いしたいと思っております。特にその中に例えばマタギも出てます。本の中に、どぶろくも出てます。お土産にどぶろく持って行ったら、そればり飲んで喜んでしまっ。それで遊びに来たいと。ただそれだけなんです。簡単なんです。あるものを食わせればいいんです。だから、そういうのをもうちょっとやる事によって、だからこのミュージアムは鳥海町にとって最適な建物になるのかなと喜んでおったら、どうも文章を読んでみたら寂しい文章だと。なんとかお願いしたいと思います。」

藤原商工観光
部長

「ミュージアム構想につきましては、先ほど話したとおりなんですけれども、今の番楽についての思いについては重々分かってますし、私たちもしていきたいと思ってます。テレビでもありますけれども、例えばホテルとか大きな施設でやるよりも、自然に囲まれたところとか、そういう雰囲気というのは、イメージとして私にもあります。そういうものはすごく大事にしなければならないし、これは観光ばかりの話じゃなくて社会教育の関係にもなると思います。今おっしゃられた事は、私たちも大事にして、今後計画にかかっていくような、市としても社会教育のほうと連携もとらなければならないと感じております。それから旧鳥海町の写真が足りないという話ですが、この観光振興計画、あるところに行った時に「由利本荘市観光振興計画じゃなく鳥海山観光振興計画にせじゃあ」って、そう言われるほど、鳥海山が出てます。でも、やはり核となるのはそうだと思いますので、例えば写真の構成につきましても、今後まだ選んで、いろんなビューポイントなり、また地域の文章にあったような写真の掲載の仕方をしたいと思しますので、今言われた美しさっていうのは、私たちスタッフも十分分かってますので、それは心配しないでください。いい写真出しますので、どこに出しても恥ずかしくないような。」

C 委員

「分かってますという答弁いただきまして、ありがとうございます。それから、62ページの「木の香る観光整備促進事業」、悪い意味で言うんじゃないですけど、その下に間伐材等のウッドチップを敷きつめると。これ、少なくとも木の香りっていう感じはしない。自然の中に入って、例えばブナ林の中とか、そういうところを一番お客さんが喜ぶんですよ。それを求めてくるんですよ。そうした時に、法体の滝。すごいと思うよ。世界に誇れると思いますよ。その法体の滝の上流の甌穴。あの自然はすごいと思うよ。あまり一般の人は行く観光客少ないんだけど。（木が倒れてて）行けないんですよ、道路悪くて。そういうの金かけなくてもできるんだよ。木を寄せればいいんだもん。自然が美しい、自然が美しいって、手をかければ自然じゃないっていいながらも、それを残すためにはある程度の手やカネをかけないと。その辺のPRが少ない。それからもう一つ。大清水山荘の向かいの褐鉄鋼掘った下の赤崩、あそこにはすごいブナ林が立っています。あその部分だけで、白神山地に負けないくらいの場所です。私もよく鉄砲撃ち（猟）をやってるから分かります。そういう所があんまり知られてない。あんまり知られると自然残らなくなるからマズイのかと思いますけれど。やっぱり鳥海山とか、ある意味では開発というか、建物を作ったというのもあると思いますけれど、やっぱりそういう所を散策して鳥海荘で風呂に入って番楽を見るとか、そこで料理を食べるとか。これでいいですよ。これは発想だと思いますけれども、何もあまりお金かけなくても、来ると思います。ただ、宣伝は確かに下手だなと思います。」

藤原商工観光 部長	「言われてます。」
C 委員	「私、昨日も花立牧場の場所言いませんけれども、パンフレットもらいに行ったら、慌てて探してるんですよ。そんな状態で、こればり出したってお客さんは来ない。そういう受け入れ態勢をもうちょっとやる事によって、あまり予算なくてもむしろ自然の中でと思いますけれども。ミュージアムに関連して、私たちも頑張りますので、よろしくお願いします。」
議長	「はい。Cさんは地域の状況を熟知されてる訳ですし、法体の滝周辺は指定文化財の地域で、あすこは伐採停止になってる。したがって、切られる心配ないけれども、人が入れなければ大変なので、考えるのに非常に有効じゃないかなと。」
D 委員	「大変ご苦労なさってまとめられたと思います。恐縮に存じております。これが、絵に描いた餅にならないように、そして目標の30%というのは、必ず25年くらいじゃなくても結構ですので、一日も早い達成を考えて頑張っていたきたい。由利本荘市でいろんな産業がある訳ですけども、これから工夫によって伸びるのは観光産業じゃないかなと思っています。そうした事から、こういう計画が生まれたと思いますが、やっぱりこの地域のよさというものを、それからテレビで盛んに言われている団塊の世代の問題等も大きく考えて取り入れていくべきじゃないかなと思います。そして、私も総合ミュージアムについてですが、鳥海の人達が非常に期待して発言しているという事は、なかなかはっきり文章的に「鳥海地域内に設置する」というふうな文言の提示はできないんでしょうか。やっぱり伝承施設等については、鳥海地域内に、また温泉を核とした場所にというような明記をしてもらいたいというのが、みなさんの希望だと思います。そういう点を一つよろしくお願いします。」
藤原商工観光 部長	「はい。まず最初のほうから、自然がウリだと思いますし、当然金をかけて人を呼び込むというだけのものは今後計画も出来ないでしょうし、やはりウリは自然だと思います。やはりスローライフと言われてますし、さきほどおっしゃったように地域のよさっていうのは、そこだと思いますし、お金がいくらあっても買えないもので、それは十分分かってますので、手を打ち間違わないようにやっていきたいと思います。それからPRにつきましても、今後ケーブル(TV)入って、インターネットでいろんな発信の仕方が双方向という形の中がありますんで、今の当然観光のホームページもたちあがると思いますし、今のメディアを使ったPRがすごく大事だと思いますので、していきたいと思います。それから、先ほどから出ているミュージアム構想の文言ですけども、これは番楽等の重要性とか位置づけというのを十分分かってますので、その事を今すぐミュージアム構想でここに建てますという事じゃなくて、今後検討させてもらいたいし、その伝承する文化として残していかなければならないという事も重々みなさん分かってるつもりですので、これは文言としては、これに載せなくても今後検討して後期のほうで位置づけ、もしかすれば早まる可能性だってない訳ではないと思います。例えば金額が15億というものでなければ、今の番楽をみなさんに利用してもらうとすれば、それは出来る可能性もあると思いますが、やはり目指す部分が当初そういうのがあったものですから、少し検討させてくださいという事ですので、ちょっと時間ください。申し訳ないですけど、よろしくお願いします。」
議長	「女性の方々何かございますか？なければ私のほうから。私、全体を評価しま

	して、非常にスマートすぎると、泥臭さが無いというのが実感でありました。泥臭さが無いというのが、逆に底力が感じられないなという文言になってると思いますので。例えば40ページの屋形船というのは、どういう意味の？あとで文言整理すると言ってましたけれど。それから、普通私どもは特産品・民芸品という形でお土産を観光客に提供するものと、そういう文言で整理してきましたけれど、ここで73ページ。旅行商品と出てきた訳ですな。特産品と旅行商品、どう変わるのかなというところが分からなくて、このへんのところが。」
藤原商工観光部長	「この計画の構想なりそういうものは、JTBとか旅行会社でないものに委託しておりますが、議会と幹事会、策定委員会の文書のあたりは全部我々でやってますんで、この辺の詰め方については、あと3回か、もうちょっと詰めさせていただきますので。今日みなさんからご意見いただきまして、文言ももうちょっと表し方ありますので、十分分かりました。」
商工振興課榊主席参事	「屋形船については私が。今、屋形船というのありましたが、これは先ほど申し上げましたが、実はアンケート調査でもらったそのまんまの記述内容をあげております。屋形船をやられてる方もいるんです、本荘で。その関係の方が書いたものだと思いますが、自分の事言ってるんですな。」
藤原商工観光部長	「水辺のまちという事で、ボートプラザとか子供たちのカヌーとか、そういうところから屋形船とか出してやってるんですよ。一艘しか無いんですが、風流で。年に何回か分からないですが。」
議長	「それから59ページの(2)の基本理念。民間事業の活動を創出するという、このページ全体を見ると、民間に全部流していくという形で、逆に行政は何するの？というのがここにはないんですよ。その辺の所もひとつ詰めてもらえればなあと思って。」
藤原商工観光部長	「これ指摘ありました。すぐ民間という形ではないんですけれども、やっぱり民間も必要だという事で。議会でも話あったんですけれども、地域協議会回って、それからと」
議長	「最後に何かありませんか？いろんな意見あると思いますけれど、今までみなさんから発言いただいた事は、そのままそっくり計画に、文章だけでなく実現可能な計画にお願いします。ただ文章にふれるだけでなく、具体的に出していただきたいなと思います。」
C委員	「さっき、水辺のまちづくりとか何とか、西滝沢とか言いましたが…。」
藤原商工観光部長	「西滝沢だけでなく、本荘も。ボートプラザありますよな。」
C委員	「ボートプラザありますけれど、西滝沢でしたっけ？そこにまた何百万・何千万か使うと思いますけれど、水でしたら法体の滝、あんなに水に親しい場所あるのに、そこにその金を投資したらどうなるか。あっちにこっちに作って維持管理大丈夫ですかという…。」
藤原商工観光部長	「キチッとしますんで、今日言われたこと。私も法体の滝によく来ますけれど、あんなにいいところないと思います。もうちょっとお金かけていいと思いますよ。木の椅子、ウッドデッキみたいなのか、もうちょっと何かあってもいい

	と思いますので、そのへんは詰めさせていただきます。」
議長	「まだいろいろあると思いますが、法体の滝のところの道路もお願いします。市長と語る会でも出されましたけれども。これで前段のほうの観光振興計画（案）については終わりたいと思います。それでは、暫時休憩をとります。」 （観光振興部 4 名 退席） ～ 休憩 ～
議長	「これから（２）の平成１９年度の事業計画について鳥海総合支所管内の分、課長さん方に説明していただきたいと思います。」 □平成１９年度の事業計画について各課長より説明 【資料：平成１９年度 由利本荘市鳥海地域主要事業（総合発展計画対比）】 ・ 振興課 ・ 産業課 ・ 鳥海診療所 ・ 市民課 ・ 水道事務所 ・ 教育事務所 ・ 建設課
議長	「特に聞きたいという事がありましたら。この予算は、議会とおりましたら次回にはみなさんに予算書を配っていただけるという事ですね。では、そのようにお願いして。 では、その他に入ります。」
振興課 佐藤主席参事	「事務局からは３月に第６回の地域協議会を予定させていただいてる訳ですが、昨年の第６回目は酒田市の八幡中央公民館に参りまして、色々地域協議会の進め方などを学んできた訳ですが、今年は路線バスの関係もありまして、町営バスを動かしております最上郡の金山町に伺いたいと思いますが、いかがでしょうかというご提案でございます。金山町の地域づくりといったもの、建物の建て方といったもの、地域のお母さん方が頑張っているがっこそばを昼食代わりに食べまして、いろんなお話を交換できればと考えております。ご賛同いただければ、実施したいと思います。以上です。」
委員	「賛成。」
議長	「そういう事で、３月、昨年も参りましたがよろしいでしょうか。日程等もありますので、決まり次第ひとつよろしくお願いしたいと思います。それから、この由利本荘市観光振興計画、これは今日の会議の意見書を付けて市長に報告すると、こうなってます。その事について、今日いろいろ話し合われた会議録に従いまして、意見書を作って市長にやるという事で、私に一任していただけるでしょうか。」
委員	「はい。」
議長	「では、そのようにさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いま

村上振興課長

す。本日は遅くまでありがとうございました。」

「長時間に亘り、大変ご苦労さまでした。第6回地域協議会は、来月上旬に予定させていただきたいと思います。委員の皆様には繰り合わせの上ご出席いただきますよう、よろしくご理解とご協力をお願いします。これもちまして、第5回地域協議会を閉じます。どうもご苦労さまでした。」

(閉会 午後8時15分)

(閉会予定時刻を過ぎたため、鳥海総合支所長の総括は割愛することとした。)